

1484

在  
夏  
電  
報

0 745

237

REEL No. A-1210

0520

アジア歴史資料センター

1484

電 信 案	外 務 省	<p style="text-align: center;">後開始セラレタシ</p> <p>ニ本條約ノ正文ハ佛文トシ度キニ付右御含ミ有度（「ラウレル」ノ同意取付済ミ）尙案文ハ英文ニテ交渉アリタク若シ修正案等アルトキハ英文ニ基キ佛文本文ヲ當方ニ於テ作成スベシ（時間ニ余裕ナク貴方ト打合せ不可能ナルトキハ佛文ハ當方ニ一任アリタシ）</p> <p>ニ調印本書ハ當方ニテ作成ノ上條約局事務官ヲシテ携行セシムベ</p>
-------------	-------------	---

0 747 239

（原議用紙乙）

1484

政務局長  
第一課長  
第二課長

官

(分類)

電 信 案	外 務 省	<p>一 本五日大本營政府連絡會議ニ於テ日比間同盟條約案文別電甲ノ通決定セリ英假譯文及佛文各別電乙及丙ノ通就テハ比島側ト御交渉ノ上案文妥結セラレタシ尤モ右交渉ハ明六日午 時以</p>
-------------	-------------	---

暗 電 件 名	年 月 日	時 分	號	主管 發 電 係	主任
日比同盟條約締結方ニ關スル件				軍電依頼	重光 外務大臣
記録件名					
(印)					

昭和十八年十月五日起草

0 746 238

（日本標準規格B5）

江  
 官  
 政務局長  
 第一課長  
 第二課長  
 1484

(分類)

電 信 案	別電甲	電送第	號	主管
		昭和	年 月 日	時 分
外 務 省	第	件 名	宛	主任
		日比同盟條約日本文ニ關スル件	軍 電 依 頼	條約局長
	(緊 急)	記録件名	發	昭和十八年十月五日 起草
			重 光 外務大臣	

日本標準規格 B 0 749 241

1484

電 信 案	依り組ミアリ爲念	キニ付右御含ミアリタシ尙冒頭別電丙ノ佛文ハ大東亞省暗號ニ
外 務 省		

0 746 240

(原議用紙乙)

REEL No. A-1210

日本國「フィリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フィリピン」共和國大統領ハ  
 日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ因リ  
 兩國ハ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツテ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世  
 界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ排除センコトヲ  
 欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ  
 大日本帝國天皇陛下  
 「フィリピン」共和國大統領

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條  
 締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

(原議用紙乙)

電信案

外務省

0 750 242

第二條

締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協カスベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

第六條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハ  
 於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ 年 月 日  
 作成ス 於テ本書ニ通テ

(原議用紙乙)

0 751 243

電信案

外務省

1484

(分預)

電 信 案	別電乙	暗	電送第	號	主管		
		昭和	年	月	日	時	分
外 務 省	第	號	件	名	宛		
					發		
			日比同盟條約英假譯文ニ關スル件	軍電依頼	重光外務大臣		
		(緊 急)	記録件名		昭和十八年十月五日 起草		

0 753 245

1484

電 信 案	日本國「フィリピン」國間同盟條約附屬了解事項
外 務 省	條約第二條ニ付 本條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ協力ノ主タル態様ハ左ノ通トス 「フィリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國 ハ「フィリピン」國ノ防衛ニ付相互ニ緊密ニ協力スベシ 右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ 昭和 年 月 日即チ 年 月 日 ニ於テ本書ニ通 ヲ作成ス

0 752 244

REEL No. A-1210

政 官 1484

電 信 課 長

電 信 課 長

(分類)

電 信 案	別電乙	暗	電	第	號	主	管
		昭和	年	月	日	時	分
外 務 省		件	名	宛	軍	電	依
		第	號	日比同盟條約英假譯文ニ關スル件	頼	主任	電
		記録件名	發	重	光	外	務
		( 緊 急 )					大臣

電信課長

主任

電 信 課 長

昭和十八年十月五日 起草

日本標準規格B5

0 753 245

1484

電 信 案	日本國「フィリピン」國間同盟條約附屬了解事項
外 務 省	條約第二條ニ付 本條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ協力ノ主タル態様ハ左ノ通トス 「フィリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フィリピン」國 ハ「フィリピン」國ノ防衛ニ付相互ニ緊密ニ協力スベシ 右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ 昭和 年 月 日即チ 年 月 日 ヲ作成ス ニ於テ本書ニ通

(原議用紙乙)

0 752 244

REEL No. A-1210

政務局長  
第...課長  
官 1181

電 信 案	別電丙	暗電第	號	主管
		略和	年 月 日 時 分	發
外 務 省		第	件 名	宛
		號	日比同盟條約佛文ニ關スル件	軍電依頼
		(緊 急)	記録件名	發
				重光外務大臣

電信課長  
主任  
課長  
昭和十八年十月五日起草

(日本標準規格 B5) 0 754 246

REEL No. A-1210

0526

アジア歴史資料センター



ACTE D'ALLIANCE ENTRE LE JAPON ET  
LES PHILIPPINES

Se Majesté l'Empereur du Japon et le Président de  
la République des Philippines,

Le Japon ayant reconnu les Philippines comme un  
Etat indépendant,

Désirant que les deux pays, en respectant mutuelle-  
ment leur indépendance autonome en tous voisins, établis-  
sent, en collaboration étroite, une Grande Asie Orientale  
basée sur la justice pour contribuer à la paix générale  
du monde, et désirant éliminer à fond, avec une volonté  
ferme et irréductible, toutes les mauvaises influences  
faisant obstacle à ce but, ont résolu de conclure un

(原議用紙乙)

0 755 247

電 信 案 外 務 省

(原議用紙乙)

Pacte à cet effet, et ont nommé pour leurs Plénipoten-  
taires respectifs, savoir:

sa Majesté l'Empereur du Japon:

Le Président de la République des Philippines:

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins  
pouvoirs, trouvés en bonne et due forme, sont convenus  
des dispositions suivantes:

Article 1.

Il y aura à jamais les relations de bon voisinage et

0 756 248

電 信 案 外 務 省



d'emitié entre Les Hautes Parties Contractantes sur la base du respect mutuel de leur souveraineté et de leurs territoires.

Article 2.

Les Hautes Parties Contractantes s'assureront l'étroite collaboration d'ordre politique, économique et militaire pour poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale jusqu'à la victoire complète.

Article 3.

Les Hautes Parties Contractantes collaboreront d'une façon mutuelle et étroite pour la construction d'une Grande Asie Orientale.

Article 4.

Les détails nécessaires à l'exécution du présent Pacte seront déterminés entre les autorités compétentes

電 信 案

外 務 省

(原議用紙乙)

0 757 249

des Hautes Parties Contractantes.

Article 5.

Le présent Pacte entrera en vigueur dès le jour de la ratification des Hautes Parties Contractantes.

Article 6.

Le présent Pacte sera ratifié le plus tôt possible. L'échange des instruments de ratification aura lieu le plus tôt possible à

En foi de quoi, les Plénipotentiaires respectifs ont signé le présent Pacte et y ont apposé leurs cachets.

Fait à

en double exemplaire,

jour du

mois de la

année de Syōwa, correspondant au

(原議用紙乙)

0 758 250

1484

TERMES D'ENTENTE ANNEXES AU PACTE D'ALLIANCE  
ENTRE LE JAPON ET LES PHILIPPINES

AD. Article 2.

Il est entendu que le modèle principal de la collaboration d'ordre militaire pour poursuivre la guerre de la Grande Asie Orientale stipulé dans le présent article sera suivante:

Les Philippines donneront toutes les facilités pour les opérations militaires que fera le Japon; en outre, le Japon et les Philippines collaboreront, d'une façon mutuelle et étroite, pour la défense des Philippines.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés à cet effet par leurs Gouvernements respectifs, ont signé

電  
信  
案

外  
務  
省

(原議用紙乙)

0 759 251

1484

les présents Termes d'entente.

fait en double exemplaire, à le  
jour du mois de le année de  
SYDNEY, correspondant au jour du  
mois

(原議用紙乙)

0 760 252

電  
信  
案

外  
務  
省

1484

次長  
政務局長  
第一課長  
第二課長  
第三課長

1481

電 信 案	外 務 省	テ之ヲ獨立條項トシテ規定スルコト適當ト認メタリ	旨カ記載サレ居ル次第ナリ「フィリピン」國ノ事情等ヨリ見	本條項ヘ日緬同盟條約ニハ之ヲ缺キ居ルモ（尤モ前文ニ其ノ趣	ニ第一條	第二項以下ハ其ノ趣旨ニ於テ日緬同盟條約ト同様ナリ	示ニ依リ行ヘレ本條約ノ署名調印ニ依リテ完了スルモノトス	ヲ明記セリ承認ハ法律論トシテハ村田大使ノ全權御委任狀ノ提	(原議用紙乙)
-------------	-------------	-------------------------	-----------------------------	------------------------------	------	--------------------------	-----------------------------	------------------------------	---------

0 762 254

電 信 案	外 務 省	第一項ヘ日緬同盟條約ニ倣ヒ帝國ノ「フィリピン」國承認ノ旨	一前文	本條約説明左ノ通右ニ依リ可然先方ニ説明アリタシ	暗 號 第 號 (緊 急)	件 名 宛 日比同盟條約説明ニ關スル件	軍 電 依 賴	發 重 光 外務大臣	主管 總務局長 主任 昭 和 十 八 年 十 月 五 日 起 草
-------------	-------------	------------------------------	-----	-------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------	---------------------	---

(日本標準規格B)

0 761 253

REEL No. A-1210

電 信 案	外 務 省	ニ於ケル新ナル同盟條約ノ内容及形式トシテ容認セラレベキモ
		ノト課ム
四 第三條		
前文ノ趣旨ニヨリ道義ニ基ク大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協		
カスベキコトヲ規定スルモノニシテ日緬同盟條約第二條ト同趣		
旨ナリ		
五 第四條ハ本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國官憲間ニ協議		

0 764 256

電 信 案	外 務 省	ニ 第二條
		本條項ヘ日緬同盟條約第一條ト同趣旨ナリ
但シ「フィリピン」國側ノ内政關係ヨリシテ特ニ「有ラユル協		
力」ナル字句ヲ避ケ且「軍事上」ノ字句ヲ「政治上及經濟上」		
ノ後ニ置キ換ヘタリ本條項ニ關シテハ附屬了解事項有リ		
本條項ト附屬了解事項ト相合シテ果シテ同盟約款ノ實體ヲ爲ス		
ヤキ付テハ從來ノ觀念ヨリスレハ稍疑間ナキニ非ザルモ大東亞		

(原議用紙乙)

(原議用紙乙)

0 763 255

決定セラルルモノナリ
六第五條
本條ハ本條約ガ批准書交換ニ先チ双方ガ批准ヲ了シタル日ヨリ
實施セラルベキコトヲ定メタリ比國側ニ於テハ調印後出來得ル
限り速ニ批准ヲ了セシメラレタ <sup>ル</sup> 批准ヲ了シタルトキハ直チニ
電報アリタシ

(原議用紙乙)

0 765 257

(二) 附屬了解事項
本了解事項ハ本條約ト一體ヲ爲スモノニシテ且發表セラルル
モノトス其ノ内容ハ本條約第二條ノ大東亞戰爭完遂ノ爲メノ
日比間ノ軍事上ノ協力ヲ説明スルモノナリ而シテ本了解事項
設置ノ理由ハ專ラ「フィリピン」國側内政上ノ事情ニ在リ即
チ先方ハ大東亞戰爭ニ關スル協力ニ付テハ之ヲ吝ムモノニ非
サルモ目下ノ治安情況ノ關係上並民心把握ノ必要上參戰ハ暫

電信案

外務省

(日本標準規格B5)

0 766 258

REEL No. A-1210



政務局長 1484  
 第一部長  
 第二部長

(分類)

電 信 案	日比同盟條約批准書交換地「マニラ」ト致度處同地ノ佛文呼稱 綴字及日本文正式呼稱御同電相成度	暗 電送第	號	主管
		昭和 年 月 日 時 分	宛	主任
外 務 省		件 名	軍 電 依 頼	主任 第一部長
		日比同盟條約署名地ニ關スル件	發 重 光 外務大臣	昭和十八年十月六日起草
		記 録 件 名		
		( 緊 急 )		

電信課長  
發電係

0 770 262

(日本標準規格 B5)

政務局長 1484  
 第一部長  
 第二部長

(分類)

電 信 案	日比同盟條約ニ關シ比島側全權委員ハ條約前文(佛文及日本文) ニ如何ニ記載セラルベキヤ全權委員ノ敬稱、肩書、氏名等記載セ ラルベキ文字全文至急決定ノ上同電相成度	暗 電送第	號	主管
		昭和 年 月 日 時 分	宛	主任
外 務 省		件 名	軍 電 依 頼	主任 第一部長
		日比同盟條約全權委員ノ記載 振りニ關スル件	發 重 光 外務大臣	昭和十八年十月五日起草
		記 録 件 名		
		( 緊 急 )		

電信課長  
發電係

0 769 261

(日本標準規格 B5)

REEL No. A-1210









大臣官房  
第...局  
第...課

1484

1484

電 信 案	別 電	電送第 號		主管 電信課長 藤約局長 主任
		昭和 年 月 日 時 分	第 號	
外 務 省	第 號	件 名	宛	主任 昭和十八年十月十二日起草
		日比同盟條約發表振ニ關スル件	軍電依頼	
		記録件名	發	
			重光 外務大臣	

(日本標準規格B5)

0.775 268

現地軍ヨリ陸軍宛電報

昭、一八、一〇、一二、

「ラウレル」ハ議會ニ對シテ説明ノ必要上條約原文ニ關シ次ノ二點  
ノ説明ヲ求メタルニ付テハ中央ノ御意嚮御回電ヲ請フ

(一) 共榮圈ノ語ハ比側ニテモ熟知シアルニ拘ラズ之ヲ省答シタル理由  
(二) 了解事項第一項協力ノ主タル態様ノ眞意如何他ニ何等カノ協力態  
様アル次第ナリヤ

(日本標準規格B5)

0.774 267

REEL No. A-1210

大 臣  
外 務 省  
第 一 課 長  
第 二 課 長

第 一 條

情報局發表案（昭和十八年十月十四日 時）

「フィリピン」ハ本十月十四日獨立ヲ宣言セリ帝國ハ即日同國ヲ承認シ特命全權大使村田省藏ヲシテ「フィリピン」共和國 全權 代表トシテ「ホセ、ペー、ラウレル」トソ間ニ日本國「フィリピン」國間同盟條約ニ署名調印セシメタリ

其ノ要旨左ノ通

前文ニ於テハ大日本帝國天皇陛下又「フィリピン」共和國大統領ハ日本國ガ「フィリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコトニ決シタルニ因リ兩國ハ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除セシムコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シタル旨ヲ述ブ

第一條ニ於テハ締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ

外 務 省

於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベキコト

第二條ニ於テハ締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ爲スベキコト

第三條ニ於テハ締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベキコト

第四條ニ於テハ本條約實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベキコト

第五條ニ於テハ本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベキコト

第六條ニ於テハ本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベク且批准書ノ交換ハ「マニラ」ニ於テ成ルベク速ニ行ハルベキコト

ヲ規定ス

尚本條約ニハ附屬了解事項アリ大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ緊密ナル協力ノ主タル態様ハ「フィリピン」國ガ日本國ノ爲スベキ軍事

外 務 省

大 臣 1484  
 政 務 局  
 第二課長  
 第二課長  
 第二課長

1484

電 信 案	外 務 省	ラレ先方ト御打合せノ上右ニ近キ「ライン」ニテ可然御取計相	發表スル豫定ナル處貴地ニ於テハ比側ノ事情ヲモ御考慮ニ加ヘ	一日比同盟條約調印終了ノ旨ノ貴電接到次第別電ノ通條約要旨ヲ	暗	電送第	號	主管
					昭和	年	月	日
					第	號	宛	發
							日比同盟條約發表ニ關スル件	重 光 外務大臣
							記録件名	
							(緊急)	

(日本標準規格 B5)

0 779 272

定ム	行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベキコト又兩國ハ「フィリピン」國ノ領土及獨立ヲ防衛スル爲相互ニ緊密ニ協力スベキコトナルベキ旨ヲ
----	--

(日本標準規格 B5)

0 778 271

REEL No. A-1210

0540

アジア歴史資料センター

第一部長  
第二部長

致  
第一部長  
第二部長

1484

(分類)

電 信 案	日本側保有ノ分ハ既ニ使用シアルモノヲ解キ使用スルコトヲ使	携行ノ調印本書案ヲ十分参照セラレ同官携行ノ用紙「リボン」(	調印本書費方ニ於テ作成ノ場合ハ左ノ點特ニ注意ノ上福島司政官	暗	電送第	號	主管
				第	年 月 日	時 分	主任
外 務 省	日比同盟條約ニ關スル件	軍電依頼	重光外務大臣	第	號	主任	昭和十八年十月十二日起草
				(緊)	急)		

(日本標準規格B5)

0 781 274

1484

電 信 案	成様致度
外 務 省	ニ尙當方ニ於テハ兩國ノ批准完了ヲ俟ツテ條約全文ヲ發表スル豫 定ナリ

(原議用紙乙)

0 780 273

REEL No. A-1210

0 5 4 :

アジア歴史資料センター

電 信 案	ニ十分遺漏ナキヲ期スルコト
	(ハ)「ニュー、パラグラフ」ト然ラザルモノノ區別ヲ携行ノモノト照合シテ遺漏ナキヲ期スルコト
外 務 省	(ニ)一行空キノ點同前
	(ホ)署名調印箇所ノ爲十分ノ余白ヲ取ルコト
	(ス)「リボン」ノ綴方ハ携行ノモノト同様ニセラレタシ
	二、修文中訂正スベキ點左ノ通

0 783 276

(原議用紙乙)

電 信 案	用シ佛文「タイプ」ヲ以テ作成セラレタシ
	一、全般的注意
外 務 省	(イ)我方保有ノ本書ハ日本ヲ先トシ先方保有ノ本書ハ比國ヲ先トシ可然「アルテルナ」ヲ施スコト尙此ノ點ハ福島携行ノモノト十分照合ノコト(末文日附ハ特ニ注意)
	(ロ)全般的ニ「コンマ」、「ピリオド」、「アクセント」(大文字ニテ「アクセント」アルハ表題ノ ANNEXES ノミナリ)等ニ

0 782 275

(原議用紙乙)